

| |
|-----|
| 解 答 |
|-----|

1

| | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 設問 1. ア | 設問 2. エ | 設問 3. エ | 設問 4. ウ |
| 設問 5. イ | 設問 6. エ | 設問 7. ア | |

(1 問 4 点×7=28 点)

2

| | | | |
|-------------|---------|---------|---------|
| 設問 1. (あ) ア | (い) イ | (う) エ | |
| 設問 2. イ | 設問 3. エ | 設問 4. ア | 設問 5. エ |
| 設問 6. ア | 設問 7. ウ | | |

(設問 1 : 2 点×3=6 点 / 設問 2 ~7 : 5 点×6=30 点)

3

| | | |
|---------|---------|---------|
| 設問 1. ア | 設問 2. ウ | 設問 3. イ |
|---------|---------|---------|

(1 問 5 点×3=15 点)

4

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| (1) ウ | (2) イ | (3) エ | (4) ウ | (5) ウ | (6) ウ | (7) エ |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|

(1 問 3 点×7=21 点)

解説

1

【全訳】

偉大な哲学者であるイマヌエル・カントは「人間は教育を必要とする唯一の存在だ」と述べた。動物には教育は必要無いのだろうか？動物界には教師は存在しないのだろうか。いつものことであるが、これは定義による。

ウィキペディアによれば、教師とは生徒が知識や能力や徳を得るのを助ける人のことだそうだ。こうした定義は既に動物の教師を排除していると言えるだろう。彼らは人でないからだ。そうすると、教えることによって、教師は生徒が新たな技術を身につけるのを助けていることや、実際に教える意図があることを、教師が理解している必要があるのかどうかに関する議論もまた存在することになる。学者の中には、教えるためには、教師がいつ知識や技術が学習者の中で失われたり不完全だったりするかを知っている必要があるとさえ主張する者もいる。しかし、これは証明するのが非常に難しい。代わりに、生物学者はより便利な定義を考え出した。「教師」は「生徒」の前で行動を変える、というものである。それによれば、教師は行動を変えたことによってすぐに利益が得られるわけでもないのに、余分なコストをいくらか支払っている。そしてもちろん、生徒は教師の行動の結果として学ばないといけない。

人間のあらゆる文化において、教えることはありふれたものである。しかし私たちの最も近い現存の親戚であるチンパンジーにおいては、その生活の中で、教えることが有益であるだろう状況を多く想像することができるけれども、教えることはめったに見られない。例えば、クルミを割ることにおいて、若いチンパンジーは8歳くらいでクルミ割りの技術を完全に習得するまで、長い間に渡って練習しなければならない。象牙海岸のタイ・フォレストでの研究では、母チンパンジーとその子供がクルミを割っている様子が70時間に渡って観察されたが、科学者たちは積極的に教えることがなされていた様子はたった2例しか発見できなかった。この2例において、母親は子供が間違いを犯したときに介入し、正しいやり方を示したのだった。片方の例では、若いチンパンジーがハンマーの間違った側を使用していた。母親は子供の手からハンマーを取り上げ、その子の目の前で正しい位置にゆっくりと回転させ、いくつかの木の実を砕いて娘チンパンジーが食べられるようにしたのだった。

この光景はとても印象的である。しかし、人間の親と子供と一緒に料理を作っているところを70時間観察しているところを想像してみよう。そのような光景が何回起こると予想するだろうか。親たちは子供の行動をどのくらいの頻度で改善しようとするだろうか。間違いなく、チンパンジーの場合よりもはるかに多くなされるはずだ！

しかしながら、動物界で多く起こっていることは、母親が子供に対してある一定の行動を促し、学習の機会を与えることなのである。母チンパンジーは熟した木の実と石を子供のために残すことで、このようなことを行う。キツネやネコやカワウソといった肉食獣は子供の目の前に獲物となる動物を時折放ち、それによって子供たちにその獲物を再び自分自身で捕まえる機会を与えるのだ。

要約すると、カントはこの点において間違っていた。動物界において、教える行為は存在しているのである。しかしながら、全てを教えるという行為はあまり見られない。これはおそらく、教える側が抱えねばならない余分なコストのせいだろう。若い動物たちが他者の助けを借りないとある種の技術を身につけることができないということになって初めて、全てを教えるという行為が進化したという可能性が高いのである。

設問 1 正解はア「定義には人間と書かれているが、動物は人間でないから」

◇下線部の **This definition** 「この定義」とは前文に書かれているウィキペディアの「教師とは生徒が知識や能力や徳を得るのを助ける人のこと」という定義のことであり、これが「動物の教師を排除している」理由が問われている。下線部の直後に理由を表す接続詞である **as** があるので、**as** の後が該当箇所であることに気づきたい。そこには「彼ら（＝動物の教師）は人でないからだ」とあるので、**ア** が正解となる。

設問 2 正解はエ **Instead** 「その代わりに」

◇空所の前で教師の定義の難しさが述べられた後で、空所を挟んで教師に関して生物学者が **a more functional definition** 「より便利な定義」を考えついたこと述べられていることから、空所に **Instead** 「その代わりに」を入れれば文意が通る。なお、**instead** は **instead of ...** で「…の代わりに」となる用法が有名だが、今回のように前の内容を受けて **instead** 「その代わりに」と意味で単独で副詞として用いることもできる。**ア** の **Because** は接続詞なので直後に **S** (主語) + **V** (動詞) が来なければならない、形が合わない。**イ** と **ウ** は副詞なので形としては合うが、それぞれ **For example** 「例えば」、**However** 「しかしながら」は上記の文脈に合わない。

設問 3 正解はエ **helpful** 「有益な」

◇「教える」という行為がチンパンジーにおいてめったに見られないという内容に対し、**although** 「…だけれども」という譲歩の節内で「その生活の中で、教えることが（ ）であるだろう状況を多く想像することができるけれども」となっている。ここではプラスの意味合いの言葉を入れれば、「教えることがプラスであるのにも関わらず、教えることがめったに見られない」となり、譲歩がうまく機能することになる。選択肢の中でプラスの意味になるのは **ウ exciting** 「わくわくする」と **エ helpful** 「有益な」のみだが、「わくわくする」を入れても意味が通らない。よって正解はエ。

設問 4 正解はウ **For mothers to put a lot of nuts in front of their children.**

「母親が子供の前にたくさん の木の実を置くこと」

◇適切でない具体例を選ぶ問題。

下線が引かれている **active teaching** 「積極的に教えること」は、「科学者たちは積極的に教えることがなされていた様子はたった 2 例しか発見できなかった」という文脈で用いられており、この文に続いて「この 2 例において、母親は子供が間違いを犯したときに介入し、正しいやり方を示したのだ」とあることから、「子供が間違いを犯したときに介入し、正しいやり方を示す」ことを **active teaching** と述べていることが分かる。この定義に沿わない例を選ばばよい。

ウ は木の実を子供の前に置いただけで、子供が間違いを犯したわけでもなければ、正しいやり方を母親が示したわけでもない。よってこれが正解となる。

ア 「母親が子供のいる前で獲物をとること」

イ 「母親が子供の間違いを正すこと」

エ 「母親が道具の正しい使い方を子供に示すこと」は全て「積極的に教えること」がなされていると言える。

設問 5 正解はイ「チンパンジーよりも人間の方が教える行為をずっと多くおこなっている」

◇ 下線部は直前の「人間の親と子供と一緒に料理を作っているところを 70 時間観察しているところを想像してみよう。そのような光景（＝親が子供に積極的に教える光景）が何回起こると予想するだろうか。親たちは子供の行動をどのくらいの頻度で改善しようとするだろうか」という疑問に対する答えとなっている箇所。 **the case with chimpanzees** 「チンパンジーの場合」と比較して **much more often** 「はるかに多い」と述べられていることから、「人間の教える行為がチンパンジーよりもはるかに多くなされるはずだ」という文意だと分かる。

設問 6 正解はエ **wrong** 「間違っている」

◇ **Kant** 「カント」は第 1 パラグラフで登場し、**"Man is the only being who needs education"** 「人間は教育を必要とする唯一の存在だ」という発言が紹介されている。これに対し、空所(6)の直後の文で **There is teaching in the animal kingdom.** 「動物界において、教える行為は存在している」と述べられていることから、この文脈においてカントは間違っていると言うことができる。

設問 7 正解はア **overall teaching** 「全てを教えるという行為」

◇ 指示語の問題は直前を探すだけでなく、指示語を含む文をしっかりと解釈するよう心がけること。今回の **it** を含む文は、「若い動物たちが他者の助けを借りないとある種の技術を身に着けることができないうことになって初めて、() が進化したという可能性が高いのである」となっている。ここに当てはまるような単数の名詞を直前から探せばよい。

アの「全てを教えるという行為」を入れれば、「他者の助けを借りる必要がある」→「全てを教えるという行為が進化した」という流れになって、文意が通る。

イの **teachers** 「教師たち」はそもそも複数形なので **it** で受けることができない。

ウ **the animal kingdom** 「動物界」やエ **this** 「このこと」（ここでは、「全てを教えるという行為はあまり見られないこと）」は **it** で指すことができるが、上記の空欄に当てはめても文意が通らないので誤りとなる。

2

【全訳】

シーツという音やため息をつく音などの言葉にならない音は、日本人が実際の言葉を使うことなく意思疎通を行う一つの方法である。そういった音は非言語コミュニケーションの別の形態であると考えることができる。

日本語は「チクタク」や「ぱたぱた」といったような、音を真似た言葉であるオノマトペであふれている。ゆえに、日本人が言葉に近いものとして音を用いることは自然なことだ。こうしたもののうち最もよくあるものは、歯を通して息を吸い込むことで出されるシーツという音だ。この音は普通、考えや提案に対して満足していないときに出されるものだ。言葉に翻訳すると、「その音は好きじゃないな」「そうすると僕は難しい立場に立たされることになるな」あるいは「僕がそれを対処しなきゃいけないように仕向けないでくれ」といったことを意味する。

日本語の非言語コミュニケーションの他の側面と同様に、こうした翻訳が難しい音に対処する方法は、アンテナを鋭敏にし、そうした音や表情や声の調子や姿勢や身振りなどによって与えられる手掛かりにチューニングを合わせることだ。アメリカ人の視点から見ると、日本人は非常にストイックで表現力に乏しいように見えることが多い。しかし実際には、彼らは多くの感情を非言語的な形で確かに表しているのである。異なるのは程度なのだ - テーブルをどんどん叩くことよりは、眉毛を上げることや口の端を下に曲げることが含まれるかもしれない。意識的にこうした手掛かりに注意を向け始めれば、それらのパターンが分かるようになるだろう。

このように意識的に注意を向けることによって、最終的にはあなたが共に働いている日本人の非言語パターンに関する自分自身の辞書を編纂することができるようになる。そうした非言語パターンの中には上で述べられたようなシーツという音のように普遍的なものもあれば、あなたが共に働く人に特有のものもあるだろう。

言葉というよりぶつぶつ言う声のように聞こえるものが聞こえたら、それは実際には言葉かもしれないということも心に留めておくべきだ。不明瞭で省略された話し方は、一部の日本人、特に中年男性によくあるものだ。そのような場合、「おはようございます」は単に「おす！」に代わってしまうことがある。

また別の「無意識的な」日本人の言葉による返答は、あいづち（話を聞いていると示すために使われる言葉）と呼ばれている。これは英語の“uh-huh”に相当する。油断のならない部分は、あいづちを打つ際に日本人は「はい」と言うことが多く、これは英語で話す際には“Yes”と訳される。これは、実際にはあなたの話を聞いているということを確認しているにすぎないのに、あなたが言ったことにその人が賛成しているという間違っただけの印象を引き起こしてしまう場合がある。特にそうなってしまう理由は、このあいづちと同時にうなづくことが多いからだ！よって、たとえ「はい」と言われても、さらなる質問によって、本当に仕事の着手許可が与えられたかどうか確認するようにしよう。

設問1 (あ) 正解はア as

◇長文中に設けられた設問だが、問われているのは文法・語法の力。このような設問ばかり落としている場合には、対策すべきは読解ではなく、文法・語法であると心得ること。**think of** と相性の良い前置詞は **as** で、**think of A as B** 「A を B だと考える」という形で使われる。本問はこれを受動態にした形で、**A is thought of as B** 「A が B だと考えられている」となっている。一見すると **of as** という二つの前置詞が連続する部分が不自然に感じられるかもしれないが、上記のように正しい形である。

(い) 正解はイ into

◇**translate** は **translate A into B** 「A を B に翻訳する」という形でよく用いられる。ここでは受動態の **A is translated into B** 「A が B に翻訳される」を基にした分詞構文(**Being Translated into words, it means ...** 「(歯を通して息を吸い込むことで出されるシーツという音は) 言葉に翻訳されると、…を意味する」という意味になっている。

(う) 正解はエ with

◇**the Japanese** と **you work** の間に関係代名詞が省略されていることに注意。**work** 「働く」と **the Japanese** 「日本人」は **you work with the Japanese** 「日本人と一緒に働く」という関係性になると分かるので、ここから **the Japanese you work with** 「あなたが一緒に働く日本人」という形を作ればよい。よって空所には **with** が入る。

設問2 正解はイ

「こうしたもののうち最もよくあるものは、歯を通して息を吸い込むことで出されるシーツという音だ。」

◇下線部を正確に解釈すればよい。**The most common of these** 「こうしたもののうち最もよくあるもの」が主語 (S) になっており、**is** が動詞 (V)、**a hissing sound** 「シーツという音」が補語 (C) となり、主語とイコール関係でつながっている。**is** という動詞が既に存在するため、その後の **made** が動詞でないことに注意。これは過去分詞 (**make-made-made** の3つ目) であり、直前の名詞 **a hissing sound** を修飾している。**by ...** 「…によって」以降は全て **made** とセットであり、「歯を通して息を吸い込むことで作られる (シーツという音)」というつながりになっている。

設問3 正解はエ unexpressive 「表現力に乏しい」

◇空所を含む文は「アメリカ人の視点から見ると、日本人は非常にストイックで (2) ように見えることが多い」となっており、その後の文で **but** 「しかし」を挟んで「しかし実際には、彼らは多くの感情を非言語的な形で確かに表しているのである」とあることから、「感情を表している」の逆の内容が (2) に入ると分かる。よって「表現力に乏しい」を意味する **unexpressive** が正解となる。**expression** 「表現」を基にした **expressive** 「表現力がある」に否定の **un-** (例えば **important** 「重要な」→**unimportant** 「重要でない」) がついたものだと分かれば、十分に意味合いを推測できるだろう。**ア emotional** 「感情的な」、**イ hardworking** 「勤勉な」、**ウ kind** 「優しい」はいずれも上記の文脈に合わない。

設問 4 正解はア「それは程度の違いだ」

◇ **one of ...** 「…のうちの1つ」に見えるかもしれないが、その意味では **one of** の後ろは必ず〈特定+複数〉でなければならない。

ex) (×) **one of reason** (×) **one of the reason** (×) **one of reasons** (○) **one of the reasons**

よって今回は **one** は上記の意味ではない。すると、〈a+単数名詞〉を受ける代名詞 **one** ではないかと推測できる。すると、直前の **difference** を受けていると考えれば、下線部の文は **The difference is a difference of degree** 「その違いは程度の違いだ」となる。このような意味として下線部を捉えれば、直前で「実は日本人は感情を表現している」という話があり、下線部の後で「テーブルをどんどん叩くことよりは、眉毛を上げることや口の端を下に曲げる」といった内容が出てきて、「日本人は感情の表出の程度が小さいが、それでもしっかりと感情を表現している」という論旨になり、文意が通ることになる。なお、**one of ...**の部分が文法的に分からなければ、このような論旨を前後関係から読み取って解答すればよい。

設問 5 正解はエ「それは実際には言葉かもしれないということも心に留めておくべきだ」

◇ **keep A in mind** は「A を心に留めておく」という意味。この **A** は今回の **that** 節のように長くなる場合は後ろに置かれて **keep in mind A** という形になることに注意。**that** 節内の主語である **it** は直前の **something that sounds more like a grunt than a word** 「言葉というよりぶつぶつ言う声のように聞こえるもの」を受けており、それが **actually** 「実際には」 **might be a word** 「言葉かもしれない」と述べられている。これらをつなげると、エの選択肢の訳になる。これは、明確な表現を行わないが実は感情豊かである日本人を表す内容として、文意も通ることになる。

設問 6 正解はア「日本人があいづちを打つ際に、英語で”Yes”を意味する「はい」という言葉を使うこと。」

◇ 指示語を含む文は、「このことは、実際にはあなたの話を聞いているということを確認しているにすぎないのに、あなたが言ったことにその人が賛成しているという間違っただけの印象を引き起こしてしまう場合がある」となっている。このような「間違っただけの印象」を引き起こしてしまうものとして正しいのは、前文の **that** 節にあたる「日本人があいづちを打つ際に、英語で”Yes”を意味する「はい」という言葉を使うこと」である。日本人としてはあいづちを打っているだけなのに、そこで”Yes”を意味する「はい」という言葉を使ってしまいがゆえに、外国人の同僚は「Yes と言っているのだから賛成しているんだ」という間違っただけの印象を持ってしまうことになる。

設問 7 正解はウ **nodding** 「うなづくこと」

◇ 設問 5 で解説した、日本人のあいづちが外国人の同僚に間違っただけの印象を持たせてしまうという内容に続いて、「特にそうなる理由、このあいづちと同時に(6)が多いからだ」と述べられている。あいづちと同時にうなづく人は多く、この「うなづくこと」も外国人から見たら”Yes”を意味することになるので、より一層「賛成している」ように見えてしまう。よって「うなづくこと」を意味する **nodding** を(6)に入れることになる。

3

【全訳】

- アンナ： やあ、エリック。どうしたの？落ち込んでるみたいだけど。
- エリック： やあ、アンナ。うーん、僕の日本人の彼女が日本に帰ろうか考えているんだ。彼女の両親がこのコロナ禍を本当に心配しているね。
- アンナ： ああ、それはお気の毒だね。でも彼女の両親がどう感じているか、理解できるな。
- エリック： そうなんだよ。どうしようもないね。
- アンナ： じゃあ、長距離恋愛になるんだね。
- エリック： もちろん、そうしてみることになるけど、長続きしないんじゃないかと思うんだよね。
- アンナ： 心配しないで。知恵を出し合えば、きっと上手くやっているとと思うよ。
- エリック： うーん、そうかもしれないね。技術の発達のおかげで、今や様々なことをオンラインで行うことができるからね。
- アンナ： そうだよ。これで、すこし希望が出てきたんじゃない？
- エリック： _____。

設問 1 正解はア **He can't do anything about it.** 「彼はそれについて何もできない」

◇ **It can't be helped** は「仕方がない；どうしようもない」を意味する慣用表現であり、頻出なので覚えるべきだが、その意味を知らなかったとしても文脈から推測できる。日本人の彼女がコロナ禍の影響で日本へ帰ってくるよう両親に言われたことに関し、アンナが「でも彼女の両親がどう感じているか、理解できるな」と述べた後で、エリックが **Yeah, I know.** 「そうなんだよ」と賛同していることが大きなヒントとなり、続く発言として自然なものを選べばよい。

他の選択肢の訳は以下の通り。

- イ「彼は彼女の両親を助けることができない」
- ウ「誰も自分の母国へ帰ることはできない」
- エ「誰も彼が長距離のデートをするのを手伝うことができない」

設問 2 正解はウ **Discuss the topic with his girlfriend.** 「彼の彼女とその話題について話し合う」

◇ **put one's heads together** で「知恵を出し合う」という意味になる。こちら覚えておきたい。今回はこれを知らなくても、「もし()すれば、いい考えが浮かんで、きっと長距離恋愛を楽しめるようになるよ」という文脈と、**head** などの表現を参考にすれば十分に正解が選べる。

他の選択肢の訳は以下の通り。

- ア「彼女に対して明確に愛情を示す」
- イ「対面で会うよりも長距離のデートをすること」
- エ「彼の両親といくらか話し合いをすること」

設問3 正解はイ **Yes, maybe things will work out.** 「うん、たぶん上手くいくと思うよ」

◇直前のアンナの「これで、すこし希望が出てきたんじゃない？」という質問に対する応答に当たる箇所。エリックは「技術の発達のおかげで、今や様々なことをオンラインで行うことができるからね」などと述べており、エリックがオンラインでの彼女とのデートに前向きになっていることが分かる。故に返答は **Yes** となる。アを選んでしまうと彼女の両親を訪れることになってしまい、オンラインでデートをするという文意に合わなくなる。よってイが正解。

他の選択肢の訳は以下の通り。

ア 「うん、彼女の両親に会いに行くよ」

ウ 「ううん、オンラインでの関係は好きじゃないな」

エ 「ううん、彼女はいないんだ」

(5) 正解はウ **Despite**

訳「コロナウイルスにも関わらず、製造工程は現在のところスムーズに稼働している。」

- ◇ **despite** は前置詞で「…にも関わらず」という意味。**ア**の **although** は接続詞なので直後に **S** (主語) + **V** (動詞) が続く必要があり、形が合わない。**エ**の **however** 「しかしながら」は副詞なので、後ろに **the corona virus** という名詞が続いていることの説明がつかない。**イ**の **besides** 「…に加えて」は正解の **despite** 同様に前置詞の用法があり、形としては正しいが、意味が合わないため誤り。

(6) 正解はウ **ten times as many books as**

訳「私の妻は本の虫だ。彼女は私の 10 倍の数の本を持っている。」

- ◇ **ten times** 「10 倍」のような倍数表現は **as ... as** の直前に置く。よってイかウが正解となるが、二つ目の **as** の後には (比較級における **than** と同じように) 「比較の相手」を置くので、ウのように **as I do** (= **I have**) とすれば、「私が持っているのと比べて、彼女は 10 倍の数の本を持っている」となり、正しくなる。

(7) 正解はエ **must have been surprised**

訳「あなたは彼を見て驚いたに違いない。彼は見た目がすっかり変わってしまったのだから。」

- ◇ **surprise** は「〈人を〉驚かせる」という意味なので、そこから派生した形容詞の **surprising** は「〈人を〉驚かせる (ような)」, **surprised** は「〈人が〉驚かされる」⇒「〈人が〉驚く」となる。今回は驚かされる (= 驚く) 側である **You** 「あなた」が主語になっているので, **surprising** でなく **surprised** を用いるのが正しい。よってウ・エに絞られる。

must は「…に違いない」という意味になる推量の助動詞。「(彼を見て) 驚いた」のは過去のことなので、〈過去の推量〉を表すために **must+have+Vp.p.** (過去分詞形) にする必要がある。よって正解はエとなる。

なお、**ア**と**イ**で用いられている推量の **may** 「…かもしれない」を用いた **may have been surprised** 「(あなたは) 驚いたかもしれない」という選択肢があれば、それも正解になる。本問では **may** か **must** かの選択は正答の決め手とはならない。